

宮城環境アドバイザー現地検討会の開催（仙台管内）

平成28年10月4日(火)に、宮城県環境アドバイザーによる現地検討会を開催しました。七北田川（蒲生地区）、北貞山運河、五間堀川（赤井江遊水池）における環境配慮について、県から説明・報告し、アドバイザー（植物・植物群落）から意見（指導・助言）をいただきました。

検討会の様子



七北田川（蒲生）



五間堀川（赤井江遊水地）



意見交換会（仙台土木事務所）

アドバイザーからの主な意見

七北田川（蒲生地区）

- ビオトープを造成する際、傾斜を緩くし、多種生物が入り込み定着できるようにしていただきたい。日和山に隣接する池には、ヨシ・水草が生息している。このような環境が参考になる。



日和山に隣接する池

五間堀川（赤井江遊水地）

- 堤内にある砂丘部は木が倒れたままの状態が残すことは、大変すばらしく思う。被災後の状態をそのまま残すことは、学術的に大変貴重であるため、手を加えずに残していただきたい。

共通事項

- 掘削した砂について、植物の種が含まれていることが多いため、工事の発生土は場内にて活用することと、砂地盤の箇所はできる限り、締め固めずに残していただきたい。
- 海岸清掃で漂流物を回収した後や工事完了後に、砂浜を重機にて均す作業は、昆虫類や植物が生息しにくい環境になってしまうため、均さずに凹凸があるままの状態にしていただきたい。

※上記、アドバイザーより意見をいただいた箇所については、環境に配慮した施工を実施していきます。